

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年10月21日（月）

活動隊員：酒井明子、花房八智代、朝田和枝、金谷雅代

1. 活動期間

2024年10月8日（火）8時30分～10月10日（木）17時00分

2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（珠洲市大谷町1字78番地）

3. 珠洲市の被害状況（10月9日15時現在 石川県庁情報 第164報）

人的被害 死者：126人 うち災害関連死：29人 負傷者：重症47人、軽症202人

住家被害 全壊：1,738棟、半壊：2,056棟、一部損壊：1,756棟 非住家被害：5,996棟

避難所 開設12箇所 避難者数101人

令和6年能登豪雨による被害等の状況 珠洲市（危機管理監室）

（10月9日（水）16時現在 第21報）

人的被害 死者：3人 行方不明者：0人 負傷者：軽症9人

住家被害 全壊：5棟 他調査中 非住家被害：調査中

避難所開設状況 10箇所 避難者数55人

通行止め箇所 5箇所

仮設住宅床上浸水 上戸町第2団地 17戸

断水 781戸（三崎町、若山町、折戸・大谷など）

4. 避難所の状況

【避難者数】

大谷小中学校 10月8日：30人（前日の避難指示による一時避難者は朝のうちに退所した）

10月9日：28人

10月10日：28人

【避難所運営と生活状況】

避難所には福井県からの応援職員が2人おり、避難所運営の多くを補助していた。断水状態は続いているが、給水が定期的（月、水、金）にあり。井戸水の使用も2ルート確保され、トイレの水不足の懸念は解消された。戸外の仮設トイレは雨天時に靴をトイレ内に入れるため、靴置きマット（雑巾）の汚れが目立った。体育館内トイレは凝固剤使用が継続されている。10月7日に降雨のため、玄関に乾いた泥、砂が目立った。体育館内も清掃すると思いのほか汚れていた。

支援物資が在宅者にも行き渡るように入口入ってすぐの廊下に並べられており、非常食や日用品など、持ち帰る姿があった。

10月9日（水）、10日（木）に外部支援者から炊き出しの提供があった。近隣の在宅者も多く昼食を

摂りに来られ、ランチルームは和やかに談笑する声が聞かれた。

避難所近くの公民館前で自衛隊の入浴支援が開始されており、避難者が徒歩で入浴に出かける様子があった。

5. 支援活動の実際

1) 10月8日(火) 活動者：酒井明子、花房八智代、金谷雅代

スタッフミーティングの後、トイレ掃除、床掃除等の環境整備を実施した。戸外トイレ内の靴置き場の段ボールとマット(雑巾)ビニールシートを交換した。午後の体育館内清掃には避難者の協力が得られた。

在宅者を3軒訪問した。2軒は不在であった。1軒は独居の方で、朝まで避難所におり、避難解除に伴って帰宅した。自宅背後すぐに土砂があり、堆積した土砂の中から水がしみている状態だった。雨が降ればまた避難するとのことだった。

避難所内にいる人に声をかけ、血圧測定を実施した。血圧が高い人はいなかった。

2) 10月9日(水) 活動者：酒井明子、花房八智代、朝田和枝、金谷雅代

前日同様にトイレ掃除、床清掃等の環境整備を実施した。晴天でトイレ内の床の汚れは少なく、ビニールシートや靴置きマットの交換はせず、次亜塩素酸での拭き掃除とした。

体育館内玄関に敷いたマットを戸外で短時間干し、叩いて砂を除去した。体育館内の床掃除も午前、午後で実施した。

在宅者の訪問を5軒実施した。1軒は不在であった。訪問先の住民は一樣に水道が出ないこと、テレビを観ることができない不便さを訴えた。多くの家庭で山水を引いており、洗濯以外の生活水は確保でき、トイレも水洗が少ないため、なんとか生活できているようだった。高地に自宅がある住民が道路に堆積した土砂を掻き出しており、短時間の強い降雨で容易に土砂が流出する環境で生活していることが分かった。雨が降れば仕事に行けないという訴えもあった。健康状態に懸念のある住民はいなかった。

炊き出しの昼食を摂りに避難所を訪れた在宅者に声をかけ、健康状態を聞き取り、生活状況についても確認した。コインランドリー使用のために、飯田まで移動している住民もいた。

避難所内避難者で血圧が高い人はいなかった。

午後に珠洲市総合病院医師と総看護師長、珠洲市職員の訪問があり、大谷診療所再開にあたって、場所の検討のため、館内の状況を確認して行かれ、避難者の健康状況について説明した。

3) 10月10日(木) 活動者：金谷雅代

活動スケジュールのとおり、環境整備を実施した。

館内を散歩したり、ベッドにいる避難者を折り紙に誘ったところ、一人がしばらく取り組んでおられた。また、健康相談を実施したところ。糖尿病でインスリン注射を実施しているが、避難所内で昼直前の注射はしにくいとのことだった。できるだけ指示された回数(量)を守れるように、人の少ない時間、早めに食事に行き、注射してみてもどうかと提案した。

PWJ担当者、県保健師、環境感染学会医師の訪問があり、避難所内の環境を確認し、以下の指摘を受けた。

長靴についた泥が乾くと砂埃となって舞う可能性があるため、長靴置き場の検討が必要
一時避難者用の 1.5 階に置いてある石油ストーブに灯油の残りが残っているものがある。化学物質過敏症
を揮発した灯油で発症する人がいるため、灯油は抜いておくことが望ましい
一時避難者は床置ききの布団で休んでいるので、段ボールベッドに変更することを推奨
体育館の空間に比して空気清浄機が少ないので増設を推奨
避難所リーダーに報告し、対処可能な点から対応していくこととなった。

6. 支援活動を通しての所感と課題

屋内の拭き掃除をすると毎回かなり汚れているため、拭き清掃による砂埃対策は継続が必要である。
また、避難者への呼吸器への影響が出現していないか確認も継続していく必要がある。

避難生活が長期化し、天候不良で屋外に出ることが難しい時の避難所内での過ごし方を、少しでも工夫
できればと考える。在宅者が炊き出しでランチルームに集まり、避難者とも談笑しながら食事してい
る様子を見ると、「集う場」の必要性を改めて感じた。

他者のいびきで不眠を訴えた人に耳栓を渡し、試してもらったが、効果がなかったと報告を受けた。
集団での生活で避難者は我慢していることが多いのが実情と考える。ゆっくり接する時間を持ち、思い
を聴いていくことも必要になる。

在宅者は、不便な中でもなんとか生活できているようだが、降雨による避難生活や悪路の行き来を繰
り返すことにもなり、負担が大きいと推察する。在宅者のフォローも重要である。

7. 写真



在宅者も持ち帰りできるよう配置された支援物資



短時間の降雨で土砂が流出・堆積した道路